

ふじさんネットワーク  
環境教育  
特集



～富士山をテーマにした環境教育へのアプローチ～

環境教育部会事務局：富士山ナショナル・トラスト



環境教育部会

富士山ナショナル・トラスト  
事務局長 / 花田文夫氏

日本人は、「森の民。」だと言  
われています。「森の民。」と  
しての心を育てることこそ環  
境教育の基本だと思います。

環境教育とは？

環境教育とは、「人間と環境  
とのかかわりについて理解と  
認識を深め、責任ある行動が  
とれるよう一人一人の学習を  
推進していこう」とするもの  
です。

目的

あらゆる行動において「自ら  
進んで環境を壊さないよう気  
づかう」という心構えを養う  
こと。すなわち、環境倫理の  
確立です。

方法

まず、自然に触れ、その自然  
を理解すること。教室での講  
義や実験だけでなく、屋外で  
実際に体験するものとして、  
自然とふれあう森林体験・農  
業体験・自然観察、その他、  
工場見学などすべてを含んで  
考えていくことが大切です。

アンケート調査の実施

富士山をテーマとした効果的な環境教育を実施するための基礎資料としてアンケート調査を実施しました。ふじさんネットワーク加盟団体（137団体）は郵送で、学校は、四市一町（富士市・富士宮市・御殿場市・裾野市・小山町）すべての小・中学校107学校に対して、教育委員会を通じてお願いしました。高校は、ふじさんネットワークに加盟している8校に対して行いました。

実施時期：2002年1月～2月まで

回収状況：244件依頼し、95件回収

環境教育活動  
静岡県立

富士宮西高等学校

富士山の麓の高校として、富士山に関する活動は歴史  
研究部やワンダーフォーゲル部などが行っていますが、  
平成13年度は県の「総合的な学習の時間」研究指導校  
となったことから、総合学習の一つのテーマに「富士  
山研究」をあげ、1年生9クラスで実施しました。

ねらい

富士山の麓で育った者として、  
郷土のシンボルの富士山が多  
様であることを知り、今も、  
多くの恩恵と厳しさを持ち合  
わせる存在であることに気づ  
く。それは、富士山の「体験」  
を通じ、地球学的、民族学的、  
自然として存在する富士山に  
興味をもち、語り、誇れる人  
となるきっかけを与えること。

研究スケジュール

- 1.基礎学習（個人）
- 2.班別学習  
地形・地質班  
民族班  
気象・自然班
- 3.講義「富士山の砂防について」
- 4.体験学習  
大沢扇状地見学  
風穴見学  
湧水地見学
- 5.研究発表

感想と課題

各テーマ別に、学年全体をほぼ均等に生徒数  
を配分しなければならないところがあった。  
そのため、生徒によっては、あまり関心のな  
いテーマに回らざるを得ない、という問題が  
あった。

富士山研究における現地見学は、場所によ  
っては教員が直接説明しなければならないと  
ころがある。今後専門的知識を持った教員が担  
当にいない場合には、事前勉強が大変となっ  
てしまうのではないと思われる。

大沢扇状地の現地見学においては、砂防事務  
所の方に全面的に（マイクロバスや現地での  
説明などで）お世話になった。今後も今年よ  
うに全面協力をお願いできるか、心配になる。  
中学での「富士山学習」や富士砂防工事事務  
所で行う、総合的な学習の「富士山研究」の  
学習する内容が、重複しないように、また、  
学問的要素を入れた高校的カリキュラムに  
する必要があるかもしれない。小学校、  
中学校、高校で教えるカリキュラムを  
整理し、地域学習として発展させる  
ことができれば好ましいし、その  
ように発展する可能性がこの「富  
士山研究」にはある。



大沢扇状地調査場所見学



大沢植木再生紙ポット栽培地見学

## 3

## アンケート調査の中間報告 一部抜粋

## 環境教育への期待

環境教育は、すでに、その必要性や、やるかやらないか、どうするかの問題ではなく、その質（内容や方法など）と量（実施団体や参加者の数など）の充実をどうはかるか、そのための体制づくりが課題となっている。

## 環境教育と提供する側の視点

環境教育を実施したいと思っている人の心情は、学校や各団体とのつながりがいいこと。従って、その気があっても依頼されない。うまく結びつきの方法はないものだろうか。頼まれればいくらでも努力するのだが。しかし、ボランティアとは言われても、費用はかかる。それなりの負担をしてほしい。それに事故が起こったときの責任問題が心配。ということだろうか。

## 環境教育を受ける側の視点

この質問に対して、学校側が一番問題にしたのが、事故が起こった場合の対策で、体験型プログラムの実施への要求は強いが、事故が怖いと言うことで、今一歩踏み出せない

いでいるようだ。次が、指導者がいないと、予算がない、である。指導者の問題は、適切な指導者を知らない、と言う問題と、体験型プログラムは、自分が体験したこともないのに、子供たちに責任を持って指導できるであろうか、という教師側の不安の反映でもあろう。それは、指導マニュアルや教材がない、どこに頼めば講師の斡旋をしてもらえるのかわからない、ということにも反映されていると考える。予算は、外部の講師を依頼するには謝礼が必要だ。その十分な裏づけがないということであろう。

## 環境教育を推進する仕組みづくり

相談窓口設置への希望は、大きいものがある。問題は、その規模と水準である。どの程度の窓口をイメージするかによって、意見はさまざまに変わってくる。総合的、体系的に構想するのか、ふじさんネットワークの実力で、とりあえず、実行可能なところから取り組むのか、意見は、わかるところだろう。ただ、完璧を求めるあまり、結局なにもできなかったということにならないようにはしたいものである。

## 環境教育活動

富士自然観察の会  
—富士市—

富士自然観察の会は、観察会を年間12回計画し、自然観察の楽しみや環境調査活動・自然学習会を行っています。また、未来を担う子供たちのために富士市内の「こどもエコクラブ」への支援活動を続けています。

## 浮島ヶ原の自然環境調査

子供たちの興味の持続できる生き物調査活動をしていく。具体的には「生物の多様性」「絶滅危惧種クロメダカの生育状況」に絞って調査活動を行い、浮島ヶ原の環境について考えることとした。

## 「原田湧水クラブ」

活動日/平成13年9月 8日 参加者：親子80人

## 「浮島エコクラブ」

活動日/平成13年9月22日 参加者：子供30人

ゴミがたくさん落ちていて自然が壊されているように見えたが、たくさんの生き物が生息していて驚いた。

絶滅危惧種に指定されているクロメダカやカダヤシがたくさんいて、生命力の強さに圧倒された。ただ、もっと自慢できる浮島ヶ原にするために「みんなでゴミ拾いをしていこう」ということになった。



古タイヤとゴミの山



大量のクロメダカ



タモにかかったカダヤシ

## 帰化植物調査

「愛鷹アースレンジャー」

調査場所：吉永北公民館東側 約5アール

第1回 活動日/平成10年6月6日 参加者：子供30人

帰化率調べ  $\frac{\text{帰化植物の種類数}}{\text{全植物の種類数}} = \frac{14}{46} \times 100 = 30.4\%$

第2回 活動日/平成13年5月20日 参加者：子供50人

帰化率調べ  $\frac{\text{帰化植物の種類数}}{\text{全植物の種類数}} = \frac{22}{29} \times 100 = 27.8\%$

吉永北地区は、富士市の北に位置する富士山麓だが、広い道路ができて車の往来が激しくなってきた。はっきりとは言えないが、本来の日本の自然が少しずつ失われてきているといえる。一番の成果は、子供たちが身近な自然に興味をもってくれたことであった。また、地域の自然を守っていこうとする心が育った活動でもあった。



サポーターに花の名前を聞く



花の名前を手作り図鑑で調べる

## &lt;感想&gt;

「自然の生態調査」という形で行ってきた支援活動の中で感じることは、子供たちは本当に自然の生き物が好きだ、ということだった。参加することが自然に目を向ける大きなきっかけとなり、活動をすることで自然を愛する心が大きく育っているように感じられる。そのことが「心から自分たちの住んでいる地域の自然を大切にしていきたい」との思いにつながっていると思う。これからも多くの子供たちの参加を期待したい。